

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 稲本 泰生				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	東アジア仏教美術史における形態の伝承・変容とその意味								
【授業の概要・目的】									
<p>東アジアにおける仏教美術の受容と展開の諸相について、「形態の伝承・変容という現象が内包する意味の解釈」という観点を中心に、多角的に検討する。主な対象は六朝隋唐～両宋時代の中国、及び併行期の朝鮮半島及び日本で制作された彫刻・絵画・工芸品。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を包括的・構造的に把握することを試みる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>今年度は「東アジア仏教美術史における瑞像と聖遺物」に関わる重要な事象を選定して遺物・文献史料の両面から検討を加え、歴史的に跡づける。</p> <p>前期は「阿弥陀浄土図・阿弥陀如来像における特定図像の反復継承と変容」、後期は「釈迦瑞像と舍利荘嚴の関係」をテーマに取り上げ、各々以下の課題について講述する。1課題あたり2～4週程度の授業をする予定。</p> <p>(a)当該テーマに関連する重要作品の系譜をたどり、問題点を抽出する。前期は中国・敦煌石窟の阿弥陀浄土図、奈良当麻寺・阿弥陀浄土図(当麻曼荼羅)など、後期は中国・龍門石窟の触地印如来坐像、韓国慶州・石窟庵の諸彫刻、京都清凉寺・釈迦如来立像などを対象とする。</p> <p>(b)インド・中央アジア的要素の東アジア仏教美術における受容の様相。</p> <p>(c)仏教徒による各種の実践・行為と造形作品・視覚表象の関係。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない 必要な資料を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									